4　【研究 C】サポートキット試作第 2 版のモニター調査による有用性の検討

4.1　研究 C の全体像

本研究では、サポートキット試作第 2 版の内容や活用方法について３つのモニター調査を行い、必要な内容の修正点や、読者が有用であると考える内容について明らかにすることを目的とした。３つのモニター調査とは、「研究 C-1：教員モニターへのインタビュー調査」、「研究 C-2：読者（教員）モニターアンケート調査」、「研究 C-3：教育センター等指導主事モニターアンケート調査」であった。

4.2　研究 C-1：教員モニターへのインタビュー調査

4.2.1　目的

サポートキット試作第 2 版について、知的障害特別支援学級の担当経験が 3 年未満の者と、知的障害特別支援学級に関して主任の立場にある、または地域の知的障害教育に関して指導的な立場にある教員を対象にインタビュー調査を行い、有用性や改善点について、より具体的内容を明らかにすることを目的とした。

4.2.2　方法

ベテラン群として 5 名、初心者群として 6 名の教員をインタビューの対象とした。

ベテラン群の教員は、知的障害特別支援学級担任の経験が 5 年以上あり、知的障害教育に関して指導的な教員として教育委員会より推薦のあった者とした。初心者群の教員は、サポートキットが主要な読者対象としている知的障害特別支援学級の担当経験が 3 年未満の者とした。

インタビューは半構造化面接の手法によりオンラインのテレビ会議システム（Zoom）を用いて行った。インタビューの時間は、調査の説明を含めて 1 時間程度とした。

インタビューの内容は、知的障害特別支援学級担当者サポートキット（試作第２版）について、知的障害特別支援学級の担当経験が 3 年未満の教員が活用することを想定した場合、その内容や使用方法について、良い点や改善点についてインタビューした。具体的には、(1) サポートキットの内容に関して、①授業づくりへの活用、②学習評価実践への活用、③教育課程の編成への活用についての 3 点、(2) サポートキット全体に関して①理解しやすいようにまとめられているか、②活用しやすいようにまとめられているかの 2 点、そして、(3) このサポートキットを使いたいと思うかと、(4) 意見と要望についてであっ

た。

4.2.3　結果

4.2.3.1　インタビュー回答者の属性

表 4-2-1 に教員インタビュー回答者の属性について示した。ベテラン群の教員経験年数の平均は 19.6 年、知的障害特別支援学級担当年数の平均は 11 年であった。特別支援学校教諭免許状は 5 名中 4 名が取得していた。

初心者群の教員経験年数の平均は 3 年、知的障害特別支援学級担当年数の平均は 1.8 年であった。特別支援学校教諭免許状の保有者は 0 名だった。

表 4-2-1 教員インタビュー回答者の属性

対象者	教員経験年数	知的障害特別支援学級担当年数	特別支援学校教諭免許状
ベテラン群	32	24	有
	14	11	有
	15	5	無
	10	6	有
	27	9	有
初心者群	7	1	無
	2	2	無
	3	3	無
	4	1	無
	2	1	無
	5	3	無

4.2.3.2　インタビュー結果について

表 4-2-2 にインタビュー結果について示した。この表では、知的障害特別支援学級担当者サポートキット（試作第 2 版）について、知的障害特別支援学級の担当経験が 3 年未満の教員が活用することを想定した場合、現在の原稿内容のままで良い点と改善点について整理した。ベテラン群からは、「学習評価まで含まれているガイドブックはほとんどないので、他にはない情報が含まれている。」、「新任者などからは、集団としてまとまりのある授業を児童の実態に合わせて考えるのがとても難しいと聞くので、NISE 授業づくりサポートシートが役立つと思う。」、「難しい用語も分かりやすく解説されていて、特別支援学級の授業づくりから学習評価まで一通りの知識を得ることができる。」といった、授業づくりに関してより深い部分でサポートキットが貢献できることに関する言及が含まれていた。

一方初心者群では、「国語（科）と算数（科）の『領域ごとの実態把握の観点』がすごく役に立つ」「写真があるので授業のイメージがしやすい。」など、授業づくりの最初の段階で必要な情報に関して有用性を感じている発言が多く見られた。

NISE 授業づくりサポートシートを研究授業などに年数回程度活用することや記入量について、初任者群の全員から好意的な回答が得られた。

改善点については、ベテラン群も初心者群も、経験年数の浅い教員向けの内容としては、イラストや図解、写真の増量など、視覚的にパッと見てわかる情報提示について言及された。また、ベテラン群から一人で読み込むのは厳しいかもしれないとの不安も示された。

表 4-2-2　インタビュー結果

インタビュー内容		ベテラン群	初心者群
「授業づくりへの活用」	良い点	・学習評価まで含まれているガイドブックはほとんどないので、他にはない情報が含まれている。 ・新任者などからは、集団としてまとまりのある授業を児童の実態に合わせて考えるのがとても難しいと聞くので、NISE 授業づくりサポートシートが役立つと思う。	・はじめて担任する場合「知的障害のイロハ」のような子供の見方の解説が役立つ。 ・国語（科）と算数（科）の「領域ごとの実態把握の観点」がすごく役に立つ。 ・通常の学級の子供たちと異なり、教科書ではなかなか学べない子供たちなので、通常の学級の指導とは異なる指導技術が必要となり、事例はとても参考になる。教室の掲示物の写真などは、通常の学級の指導の感覚でなく、知的障害のある児童たちの実態に合わせることを改めて認識させてくれた。 ・写真があるので授業のイメージがしやすい。
	改善点		・より即戦力となるような内容もあるとよい。 ・特別支援学校適の重度の児童の指導の内容（自立活動）もあればよい。 ・授業事例に年間指導計画が併せて掲載されていると授業のイメージがより湧く。 ・教材についてもっと写真があると役立つ。
「学習評価実践への活用」	良い点改善点	・子供の実態について考えるのに役立つ。 ・評価基準として 3 つのレベルを考えるのは良いと思う。 ・授業づくり、学習評価、教育課程の編成、どれにも「教科別領域ごと」の案が示されるとより良いものとなると思います。	・研究授業などの指導案作りに役立つ。 ・特別支援学級での指導案についての情報が少なかったので、助かる。
「教育課程の編成への活用」	良い点	・自立活動や各教科等合わせた指導の詳しい解説もあるとよい。	・教育課程の編成は主任の先生が主に担当しているので、教育課程編成には使用しなあいかもしれない。 ・知識として理解する助けにはなる。 ・研修等で聞いた用語の理解・復習に役立つ
	改善点	・年間指導計画が例示されているとイメージがわく。	・年間指導計画が例示されていると年間の流れをイメージできる。

表 4-2-2　インタビュー結果（つづき）

インタビュー内容		ベテラン群	初心者群
理解しやすさ	良い点	・難しい用語も分かりやすく解説されていて、特別支援学級の授業づくりから学習評価まで一通りの知識を得ることができる。	・具体例や写真が多く分かりやすかった。 ・写真があり、授業の様子が分かりやすい。
	改善点	・ただ、文字数が多く、経験の浅い先生が根気強く読み込んでくれるか不安を感じる。 ・経験の浅い教員一人で読み込むのはつらいかもしれない。 ・イラストが 10p に 1 つくらいあると良い。 ・ポイントが見てわかるような図解や目を引くイラストがあるとよい。	・写真のページをもっと増やして欲しい。
活用しやすさ	良い点	・(印刷した場合) A4 サイズでよい。 ・電子版は、通勤中など隙間時間にタブレット等で閲覧することができるだろう。 ・分冊になっているのは見やすいと思う。 ・地域の特別支援学級担任の勉強会などで同輩・後輩と一緒に活用できる。 ・	・様式、学習プリントなどのファイルデータもあると良い。担当する児童に合わせてアレンジすることができる。 ・電子媒体もよい。タブレットでも見ることができる。 ・(印刷した場合) A4 サイズでよい。 ・じっくり読みたいので印刷すると思う。 ・分冊になっているのは見やすい。 ・研究授業は年１、２回（初任者研修）なので、NISE サポートシートを埋めることはできると思う。記入量は多いが、一人一人の実態把握など、全項目、授業づくりの際考えなければならない必要な内容であると思う。
	改善点	・何が書いてある頁かパッと見て分かるとよい。辞書の端にあるタブのようなものがあると分かりやすい。	・自分の経験 1 年次と 3 年次では必要な情報が異なる。3 年次では、より児童の実態に合わせた授業について、より深く学びたい。

4.2.4　考察

おおむね、知的障害特別支援学級担当者サポートキット（試作第２版）の内容や活用について高評価を得られた。

NISE 授業づくりサポートシートを研究授業などに年数回程度活用することや記入量について、初任者群の全員から好意的な回答が得られたため、記入量の削減は行わない方針が良いと考えられる。

改善点としては、初心者群、ベテラン群の双方から、イラスト、写真、図解などの増量が望ましいということが挙げられた。そこで、最終版では、イラスト等の増量を検討することが必要であると考えられる。

電子ファイルの提供についても改善点として意見が挙げられていたので、サポートキットのホームページからダウンロードできるよう整備することも考えられる。学習プリント・ファイルについての要望もあったが、それらは都道府県教育センター等において整備していることも見られ、本サポートキットは読みやすい分量で特徴を分かりやすくするため、学習評価に関する内容に絞るのが、読み手に適していると考えられる。

4.3　研究 C-2　読者（教員）モニター調査

4.3.1　目的

モニター調査を通して、サポートキットの内容や活用方法などの修正点を明らかにし、サポートキットの改善につなげる。

4.3.2　方法

4.3.2.1　調査対象

Ａ県総合教育センター主催の「小・中学校特別支援学級新担任研修講座」を受講する、知的障害特別支援学級を担当している教員 19 人であった。

4.3.2.2　調査対象

2020 月 9 月下旬に実施された「小・中学校特別支援学級新担任研修講座」の終了時に調査用紙とサポートキットを配布し、回答は当研究所の回答専用 FAX 番号、または当研究所ホームページ内に設置した回答専用アンケートサーバーへの提出を依頼した。

4.3.2.3　調査方法

調査用紙は、調査対象者の年代、教員経験年数、知的障害特別支援学級担当年数、特別支援学校教諭免許状の有無を問うフェイスシート、サポートキットの内容と全体構成、活用の有無を問う 6 つの質問項目、サポートキットに対する意見と要望を問う 1 つの質問項目で構成した。具体的な質問内容について、サポートキットの内容を問う項目では、授業づくりの手だて、学習評価、教育課程の編成について 3 項目、サポートキット全体を問う項目では、理解しやすさや活用しやすさについて 2 項目とした。サポートキットの使用では、実際に使いたいと思うかについて 1 項目、サポートキットに対する意見と要望では、自由記述を 1 項目とした。

調査用紙への回答について、フェイスシートでは選択肢または自由記述、サポートキットの内容を問う各項目では、内容については「4．十分に活用できる」「3．ある程度活用できる」「2．あまり活用できない」「1．ほとんど活用できない」の 4 件法とした。全体では、「3．まとめられている」「2．どちらかといえばまとめられている」「1．どちらかといえばまとめられていない」「1．まとめられていない」の 4 件法で回答を求めた。サポートキットに対する意見と要望については、自由記述で回答を求めた。

4.3.2.4　分析方法

分析では次の 4 点を検討した。1 点目はサポートキットの内容が、授業づくりや学習評価の実践、教育課程の編成に活用できる内容となっているかを明らかにすることである。2 点目はサポートキット全体について、理解しやすく、かつ活用しやすいようにまとめられているかを明らかにすることである。3 点目はサポートキットを使いたいと思うかを明らかにするものである。これらは質問項目毎に単純集計を行って回答

傾向を整理した。4 点目はサポートキットに対する意見と要望の内容について明らかにするものである。ここでは、回答内容の文意を考慮しながら整理した。

4.3.3　倫理的配慮

本調査は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所倫理審査委員会の承認（受付番号：2020-11）を得た上で実施した。また、調査対象者に対しては、文書にて調査の趣旨と内容、プライバシー保護などに関する説明を行い、調査協力への承諾は、調査用紙の回答をもって確認した。

4.3.4　結果

調査用紙を配布した 19 人中、当研究所回答専用 FAX 番号に８人、当研究所ホームページ内に設置した回答専用アンケートサーバーに３人の計 11 人から回答が得られ（回収率 57.9%）、全ての回答を分析対象とした。

4.3.4.1　回答者について

年代では 20 歳代４人、30 歳代１人、50 歳代３人、60 歳代３人であった。教員経験年数では１年目から５年目が５人、６年目から 10 年目が０人、11 年目から 20 年目が１人、21 年目以上が５人であった。知的障害特別支援学級担当年数では、１年目から５年目が 10 人、６年目から 10 年目が１人、11 年目から 20 年目と 21 年目以上が０人であった。特別支援学校教諭免許状所有の有無では、所有あり２人、所有なし９人であった。

4.3.4.2　サポートキットの内容について

サポートキットの内容が、授業づくりや学習評価の実践、教育課程の編成に活用できる内容となっているかについての結果を表 4-3-1 に示した。

「授業づくりに活用できる内容となっていますか」の質問項目では、「十分に活用できる」が３人（27.3%）、「ある程度活用できる」が７人（63.6%）、「あまり活用できない」が０人（0.0%）、「ほとんど活用できない」が１人（9.1%）であった。「学習評価の実践に活用できる内容となっていますか」の質問項目では、「十分に活用できる」が３人（27.3%）、「ある程度活用できる」が７人（63.6%）、「あまり活用できない」１人（9.1%）、「ほとんど活用できない」が０人（0.0%）であった。「教育課程の編成に活用できる内容となっていますか」の質問項目では、「十分に活用できる」が４人（36.4%）、「ある程度活用できる」が７人（63.6%）、「あまり活用できない」「ほとんど活用できない」がともに０人（0.0%）であった。

表 4-3-1　サポートキットの内容について

	十分に活用できる	ある程度活用できる	あまり活用できない	ほとんど活用できない
授業づくりに活用できる内容となっていますか	3（27.3%）	7（63.6%）	0（0.0%）	1（9.1%）
学習評価の実践に活用できる内容となっていますか	3（27.3%）	7（63.6%）	1（9.1%）	0（0.0%）
教育課程の編成に活用できる内容となっていますか	4（36.4%）	7（63.6%）	0（0.0%）	0（0.0%）

n=11

4.3.4.3　サポートキットの全体について

サポートキット全体について、理解しやすく、かつ活用しやすいようにまとめられているかについてまとめた結果を表 4-3-2 に示した。

「理解しやすいようにまとめられていますか」の質問では、「まとめられている」が４人（36.4%）、「どちらかといえばまとめられている」が７人（63.6%）、「どちらかといえばまとめられていない」「まとめられていない」がともに０人（0.0%）であった。「活用しやすいようにまとめられていますか」の質問では、「まとめられている」が３人（27.3%）、「どちらかといえばまとめられている」が８人（72.7%）、「どちらかといえばまとめられていない」「まとめられていない」がともに０人（0.0%）であった。

表 4-3-2　サポートキット（試作第２版）の全体について

	まとめられている	どちらかといえばまとめられている	どちらかといえばまとめられていない	まとめられていない
理解しやすいようにまとめられていますか	4（36.4%）	7（63.6%）	0（0.0%）	0（0.0%）
活用しやすいようにまとめられていますか	3（27.3%）	8（72.7%）	0（0.0%）	0（0.0%）

n=11

4.3.4.4　サポートキットの使用について

サポートキットを使いたいと思うか、の質問については、「思う」が 4 人（36.4%）、「どちらかといえば思う」が 7 人（63.6%）、「どちらかといえば思わない」「思わない」がともに 0 人（0.0%）であった。

4.3.4.5　サポートキットに対する意見と要望について

サポートキットに対する意見と要望について、5 人から得た自由記述の内容を表 4-3-3 に示した。

意見では、算数科の単元設定での活用や学習指導案作成時の評価規準の設定などに参考になることが挙げられていた。一方、要望では授業の場面設定の写真掲載を増やすことや各学校への配布、様々な教科の授業づくりの資料が必要であることが挙げられていた。

表 4-3-3　サポートキットに対する意見と要望

意見	要望
○国語と算数の学習指導案作成に参考になる評価規準ある	○授業の場面設定の写真がもう少し載せてあるでとありがたい
○１年目で何もわからない状況のときに、これがあると安心して授業をしていけると思う	○完成したら各校に配布して欲しい
○19 ページの算数の単元計画は参考になる	○様々な教科についての授業づくりの資料があればありがたい
○特に算数科のように、知識技能が具体的に記入されていると助かる	
○今年度から知的障害特別支援学級のため、こういったものは大変参考になる	

n=5

※一部抜粋

※複数回答あり

4.3.5　考察

サポートキットの内容が、授業づくりや学習評価の実践、教育課程の編成に活用できる内容となっているかを明らかにする質問項目では、「授業づくりに活用できる内容となっていますか」「学習評価の実践に活用できる内容となっていますか」「教育課程の編成に活用できる内容となっていますか」への回答は、それぞれの質問項目において 90%以上が「十分に活用できる」「ある程度活用できる」となっている。したがって、本調査回答者は、サポートキットの内容は知的障害特別支援学級担当者にとって活用できると評価したといえる。

サポートキット全体について、理解しやすく、かつ活用しやすいようにまとめられているかを明らかにする質問項目では、「理解しやすいようにまとめられていますか」「活用しやすいようにまとめられていますか」において、ともに「まとめられている」「どちらかといえばまとめられている」を合わせると 100%の回答である。このことから本調査回答者は、サポートキットは知的障害特別支援学級担当者にとって理解しやすく活用しやすいようにまとめられていると評価したといえる。

サポートキットを使いたいと思うかを明らかにする質問項目では、「思う」「どちらかといえば思う」の回答を合わせると 100%であった。このことから、本調査回答者は、発行された際には多くの知的障害特別支援学級担当者から活用されるものと評価したと考えられる。

サポートキットに対する意見と要望については、参考となる学習評価の評価規準や単元計画が示されているとの意見がある。一方、授業の場面設定の写真がもう少し載せてあると良いことや様々な教科の授業づくりの資料が必要であるとの要望がある。今後は、授業の場面設定や教材教具などを視覚的により分かりやすく示すことや国語科と算数科以外の授業づくりの資料も掲載することを検討する必要があろう。

付表　調査用紙

FAX 回答用

知的障害特別支援学級担当者サポートキットに関するアンケート

忌憚なきご意見をお聞かせくださいますよう、よろしくお願いいたします。なお、回答は**小学校知的障害特別支援学級担当の方のみ**お願いいたします。

☆以下の設問につきまして、あてはまる数字を１つだけ選んで数字を○で囲み、また、該当する数字をご記入ください。

１．ご回答くださる先生につきましてお答えください。

年代	20 代　・　30 代　・　40 代　・　50 代・　60 代
教員経験年数 （令和２年５月１日現在）	年目
知的障害特別支援学級担当年数 （令和２年５月１日現在）	年目
特別支援学校教諭免許状所有の有無 （令和２年５月１日現在）	有　・　無

２．知的障害特別支援学級担当経験３年未満の方が読むことをイメージして、以下の問いについてお答えください。

１）サポートキットの内容につきまして、それぞれお答えください。

	十分活用できる	ある程度活用できる	あまり活用できない	ほとんど活用できない
授業づくりに活用できる内容となっていますか	4	3	2	1
学習評価の実践に活用できる内容となっていますか	4	3	2	1
教育課程の編成に活用できる内容となっていますか	4	3	2	1

２）サポートキット全体につきまして、それぞれお答えください。

	まとめられている	どちらかといえばまとめられている	どちらかといえばまとめられていない	まとめられていない
理解しやすいようにまとめられていますか	4	3	2	1
活用しやすいようにまとめられていますか	4	3	2	1

３）このサポートキットを使いたいと思いますか。

思　う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
4	3	2	1

☆サポートキットに対するご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

☆令和２年度末完成の「知的障害特別支援学級担当者サポートキット（改訂版）」の送付を希望なさる方は、下に学校名とお名前をお書きください。

学校名：　　お名前：

ご協力くださいまして、誠にありがとうございました。

4.4　研究 C-3　知的障害特別支援学級担当者サポートキットに関するモニター調査(教育センター)

4.4.1　目的

知的障害特別支援学級担当者サポートキット（試作第 2 版）（以下、サポートキットとする）の内容に対し、各都道府県・指定都市で研修業務に当たる指導主事から、知的障害特別支援学級担任にとって有用性や研修講座への活用可能性について問い、サポートキット改善の参考情報を得る。

4.4.2　方法

4.4.2.1　調査対象

各都道府県・指定都市の教育センター67 機関を対象とした。

4.4.2.2　調査方法

調査対象機関に、調査依頼書と調査用紙を送付し、ウェブ上のアンケートサーバーへの回答を求めた。

4.4.2.3　調査内容

調査用紙は、サポートキットの内容を問う 3 つの質問項目、サポートキットに対する意見と要望を問う 2 つの質問項目、サポートキットの研修講座での活用可能性を問う内容で構成した。具体的な質問項目について、サポートキットの内容を問う項目では、知的障害のある児童への対応の仕方の理解、学習評価の実践、教育課程の編成について 3 項目、サポートキット全体を問う項目では、理解しやすさや活用しやすさについて 2 項目とした。サポートキットの活用可能性では、使用したいと思うか、及び、どのような活用の仕方が考えられるかの 2 項目、サポートキットに対する意見と要望では、自由記述を 1 項目とした。

調査用紙への回答について、フェイスシートでは選択肢または自由記述、サポートキットの内容を問う各項目では、内容については「4 ．十分に活用できる」「3 ．ある程度活用できる」「2 ．あまり活用できない」「1 ．ほとんど活用できない」の 4 件法とした。全体では、「4 ．まとめられている」「3 ．どちらかといえばまとめられている」「2 ．どちらかといえばまとめられていない」「1 ．まとめられていない」の 4 件法で回答を求めた。また、使用したいかを問う設問では、「4 ．思う」「3 ．どちらかといえば思う」「2 ．どちらかといえば思わない」「1 ．思わない」とした、なお、サポートキット対する意見と要望については、自由記述で回答を求めた。

4.4.3　倫理的配慮

本調査は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所倫理審査委員会の承認（受付番号：2020-17）を得た上で実施した。また、調査対象者に対しては、文書にて調査の

趣旨と内容、プライバシー保護などに関する説明を行い、調査協力への承諾は、調査用紙の回答をもって確認した。

4.4.4 結果

4.4.4.1　回答数・回答率について

回答数は 57 機関で、回答率は 85.1%だった。

4.4.4.2 サポートキットの活用可能性について

サポートキットの活用可能性に関する 3 つの設問の回答は以下の通りだった。3 つの設問で十分に活用できる、ある程度活用できると答えた割合は、それぞれの設問で 9 割以上を占めている。

余り活用できないと答えた自由記述をみると、自学自習するには難しいとする回答や、サポートシートの記載量が多く負担であることが挙げられていた。

表 4-4-1　サポートキットの活用可能性について

	十分に活用できる	ある程度活用できる	あまり活用できない	ほとんど活用できない
知的障害のある児童への対応の仕方の理解に活用できる内容となっていますか	32（56.1%）	23（40.4%）	2（3.5%）	0（0%）
学習評価の実践に活用できる内容となっていますか	34（47.4%）	28（49.1%）	2（3.5%）	0（0.0%）
教育課程の編成に活用できる内容となっていますか	27（47.4%）	28（49.1%）	2（3.5%）	0（0.0%）

4.4.4.2 サポートキットの研修講座での使用可能性について

サポートキットを使用したいかに関する設問では、思う、どちらかといえば思うと答えた回答は、それぞれの設問で 9 割以上を占めている。

表 4-4-2　サポートキットの研修講座での使用について

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
知的障害特別支援学級担当者研修講座で使用したいと思いますか	35 (61.4%)	20 (35.1%)	1 (1.8%)	1 (1.8%)

また、サポートキットを知的障害特別支援学級担当者研修講座で活用する場合、どのような活用の仕方が考えられるかの設問では、「研修講座の中で受講者に参考資料として紹介」、「研修講座で使用する講義資料作成のための根拠資料として活用」「学校等へ指導講師に行った際に先生方に参考資料として紹介」「学校等への情報提供資料として活用」、「学校等で指導講師をするときの研修資料づくりに活用」、「研修講座での研修資料として活用」、「学校等の先生方からの相談に対応するための資料として活用」が高い割合で回答されていた。

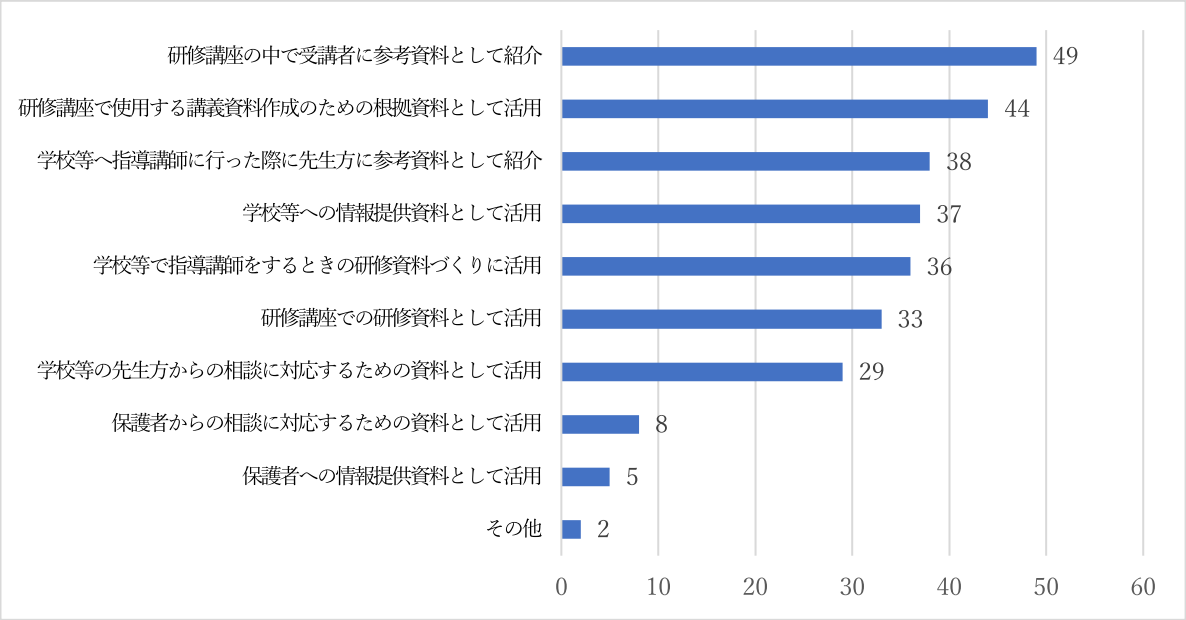

図　4-4-1　サポートキットの活用の仕方

4.4.4.3 サポートキットの改善点について

サポートキットの改善や要望点では、分量、内容、追加して欲しい内容、サポートキットの発表方法について記述されていた。

分量については、情報量が多いことが挙げられている。

内容については、レイアウト等に関する記述があり、例としては、「情報を探しやすいような目次等があると良い」、「イラストや図で表記すると分かりやすくなる」、「特別支援学級担任の困難さを感じている内容を反映させた構成にすると良い」などが挙げられる。

付け加えて欲しい内容については、「自立活動や各教科等を合わせた指導」、「国語、算数以外の他教科」、「ICT 機器を活用した授業づくり」が挙げられた。

発表方法については、紙媒体だけでなく、「ウェブに掲載しダウンロードできる様にして欲しい」、「パワーポイントスライドや動画を作成し、センターでも活用できると有り難い」などが挙げられた。

4.4.5 考察

本調査では、各都道府県・指定都市において教育センターの研修を担当する指導主事から、サポートキットの知的障害特別支援学級担任にとっての活用可能性や、研修講座への使用可能性についての意見を得た。

知的障害特別支援学級担任者にとってのサポートキットの活用可能性については、児童への対応の仕方の理解、学習評価の実践への活用、教育課程の編成への活用についての 3 つの設問で 9 割以上が「十分に活用できる」、「ある程度活用できる」と回答している。指導主事からみてサポートキットの内容は、評価されたと考えられる。

研修講座での使用可能性についても、「使用したい」「どちらかといえば思う」との回答が 9 割以上で評価が高かった。活用の仕方としては「研修講座の中で受講者に参考資料として紹介」が 57 機関中 49 機関、「研修講座で使用する講義資料作成のための根拠資料として活用」が 44 機関と特に高く、「研修講座での研修資料として活用」のように直接的な活用について回答したセンターは 33 機関という結果である。こうしたことから、知的障害特別支援学級担当者向けの研修において、サポートキットは知的障害特別支援学級に関連する研修内容を示す際に参考にしたり、関連する資料として紹介したりすることが主な活用方法であると想定することができる。

こうしたことから、今後サポートキットの活用を促すためには、自由記述で得られた改善点を踏まえながら研修等での活用方法の提案をする必要があると考えられた。こうした点については、研究成果の普及活動において参考にできる。